

2026 年 7 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社坪田ラボ  
代表者名 代表取締役社長 CEO 坪田 一男  
(東証グロース：4890)  
問合せ先 企画管理本部広報・IR 機能長 木下 淳  
(TEL 03-6384-2866)

## マイボーム腺機能不全治療薬 TLM-001、第 IIa 相臨床試験臨床試験において LPO を達成

株式会社坪田ラボ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：坪田一男、以下「当社」）は、マイボーム腺機能不全（MGD）治療薬「TLM-001」の MGD を伴うドライアイを対象とした第 IIa 相臨床試験（Phase 2a、以下「本試験」）において、2026 年 6 月 25 日に最終被験者の観察が完了（LPO：Last Patient Out）したことをお知らせいたします。

本試験は、マルホ株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：杉田淳）が実施しているものであり、当社は 2026 年 7 月 1 日に、最終被験者の観察が完了した旨の報告を受領いたしました。

本試験は、「TLM-001」の有効性および安全性を探索的に評価し、今後の臨床開発方針を検討するためのデータを取得することを目的として実施されております。マイボーム腺機能不全（MGD）は、ドライアイ症状の背景因子の一つとして重要な病態であり、眼の不快感や視機能への影響を通じて、患者様の日常生活の質に大きく関わる疾患領域です。一方で、既存治療のみでは十分な改善が得られない患者様も存在しており、治療選択肢に対するアンメット・メディカル・ニーズ（UMN）は依然として高いものと認識しております。

「TLM-001」は、こうした UMN に対し、新たな治療選択肢となり得る可能性を検討している開発品です。今回の LPO は、本剤における有効性および安全性の評価に必要な臨床データの取得が完了したことを意味しており、今後の開発方針を検討するうえで重要な節目であると考えております。

今後、取得した臨床データの解析を進め、2026 年 11 月中旬に解析完了を見込んでおります。解析結果を踏まえ、「TLM-001」の今後の開発方針について検討を進めてまいります。なお、本試験結果および今後の開発計画に関して開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

本件による 2027 年 3 月期の当社業績への直接的な影響はありませんが、当社パイプラインの価値向上および中長期的な成長基盤の強化に寄与するものであると考えております。

以上

#### ◇ TLM-001 について

TLM-001 は、ビタミン D 関連物質とマイボーム腺機能の関係に着目し、ビタミン D 関連物質を主成分とする眼軟膏の研究開発パイプラインです。本パイプラインは、眼表面の層別治療の考え方におけるマイボーム腺および油層に着目したものであり、涙液油層の安定性に関する作用メカニズムの検証を通じて、眼表面領域における新たな開発可能性を探索しています。

#### ◇ マイボーム腺機能不全（MGD）について

MGD は、まぶたに存在するマイボーム腺の機能低下により、涙液油層を構成する脂質の分泌量や性状に異常が生じる疾患です。涙液油層は涙液の蒸発を抑え、眼表面の涙液層を安定的に維持する役割を担っており、MGD はドライアイ症状の背景因子の一つとして、眼不快感や視機能の低下を通じて患者様の日常生活の質に影響を及ぼすことがあります。